

そうだ、和歌山に行こう！

呉 衛麗

私は4月5日の朝和歌山に来た。朝ごはんもまだ食べていないので、友達とレストランを探しに行った。しかし、見つけたレストランは極めて少ない。しかも、開店は10時あるいは11時となっているので、結局私たちはスーパーで弁当を買って食べた。もうひとつ気になるのは街を歩いている人の姿があまり見かけないことである。道を聞こうとしても、聞ける人がいないので、確かに困った。

のんびりとした町だなあと当時はこのように思った。いや、正確に言うと、活気に欠けている町だ。通学中、道の両側にある店に入っていくお客さんの姿はあまり見かけない。時々これらの店はどうやって経営し続けているのだろうと不思議に思ったときもある。ショッピングしたくても、ショッピングできるところはない。そのため、ショッピングをしたいときはいつも大阪に行く。一番典型的なのはやはりぶらくり丁であろう。昔の写真を見ると、人が多すぎて、その道を歩いていたら迷子になってもおかしくない状況だった。しかし今は完全に荒れている。休業した店も少なくはない。今はすっかり人々の思いでなくなったのだ。

本当に言うと私は大きな都市より和歌山みたいなのんびりとした町のほうが好きだ。和歌山の人是非常に親切で、いつも助けてもらっている。これはたぶん小さな町ならではの人情なのかもしれない。和歌山を愛しているからこそ、和歌山をよりよくしたいのだ。そのため活気を取り戻さなければいけない。

和歌山を元気づけるために、いくつかの方法が考えられる。

第一、学校を市内に建てること。私の大学は金華にある。昔金華はとても貧困な町で、あまり活気がなかったが、わが校が金華に建てて以来、金華はすくなくにぎやかな町になった。もし学校を市内に建てたら、学生が増えるにつれ、商品への需要も増えていくに違いない。きっと和歌山に活気を注いでくれると思う。

第二、商店街を作ること。

ショッピングできるところが少ないので、人々は大阪に買い物に行く。これは和歌山の経済発展にとって一つの損になるところだと思う。これを解決するにはショッピングできるところ――商店街を作ればいい。あるいはぶらくり丁を再建すればいい。多くの顧客に来てもらうように、いろんな商品をそろえて、盛んに宣伝する必要がある。たとえば手頃の値段でいろいろなおいしいものを気楽に食べれる屋台とか設置したらいいと思う。ショッピングできる場所があると人々は大阪に行かなくても済む。和歌山の経済の発展にもいいのではないのだろうか。

第三、和歌山のいいところを宣伝し、観光客に来てもらうこと。和歌山には数多くの観光地がある。たとえば、海水浴ができ、海の景色が満喫できる和歌の浦。十匹以上のかわいいパンダのいる白浜。歴史のある神秘的な高野山、熊野古道。どれも一見に値するところである。和歌山の観光地を全日本に、全世界に紹介すべきだ。大勢の観光客が来てくれると和歌山の街はきっとよりにぎやかになるに違いない。

和歌山は私にとって人生初の海外生活の特別な場所である。私の第二故郷ともいえる。和歌山を元気づけて、日本中、世界中の人々に暇なとき“そうだ、和歌山に行こう”と思

ってもらえたら、なんとうれしいことだろう！

